

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境					0.40	-	-		3.4
1 音環境				3.0	0.15	3.3	1.00		3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.7	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		専有部:界壁設計目標値D <sub>r</sub> -50(予定)		3.0	-	4.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		専有部:界床設計目標値L <sub>r</sub> -45(予定)		3.0	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		専有部:界床設計目標値L <sub>r</sub> -50(予定)		3.0	-	4.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.00	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.1	1.00		3.1
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50		
1 室温		日本住宅性能表示基準 5.1断熱等性能等級4を取得		3.0	0.62	3.0	0.63		
2 外皮性能				3.0	0.37	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.01	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				3.0	0.25	3.6	1.00		3.4
3.1 屋光利用				4.1	0.30	4.0	0.30		
1 屋光率		共用部:5.25、専有部(J1,2タイプ):4.2%		5.0	0.59	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 屋光利用設備				3.0	0.41	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				2.0	0.29	4.0	0.30		
1 屋光制御		専有部:庇、カーテンボックス		2.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.26	3.0	0.25		
4 空気質環境				4.1	0.25	4.0	1.00		4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		共用部・専有部:ほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用。ホルムアルデヒド以外のVOCについても放射量の少ない建材を全面的に採用。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.0	0.00	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				3.0	0.40	3.2	1.00		3.1
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		CH=2.600程度		3.0	0.30	3.5	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.01	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.01	-	-		
3 内装計画				3.0	0.98	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.2	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		住棟は免震制御装置導入		4.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		住棟は日本住宅性能表示基準 3.1劣化対策等級3を取得		5.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:ポリエチレン管(B) 汚水排水:硬質塩化ビニル管(B) 雑排水:硬質塩化ビニル管(B)		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA 仕様		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			3.0	0.30	3.6	1.00	3.4
3.1 空間のゆとり			4.2	0.01	4.2	0.50	
1	階高のゆとり	共用部:1階4.8m、2階5.5m 住戸階:階高:3.3m以上3.6m未満。	5.0	0.60	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.01	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.99	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	3.7
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		[BPI][BPIm] = 1.12 日本住宅性能表示基準 5.1断熱等性能等級4を取得	3.9	0.20	-	-	3.9
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = - 住宅部分:BEI=0.75 非住宅部分:BEIm=0.99	4.9	0.50	-	-	4.9
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	0.02	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.98	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	3.6
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		磁器質タイル、ビニル床材、断熱材	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・リサイクル促進対策として、住戸は二重天井・二重床を採用 配管や配線が躯体や仕上材と錯綜しない計画 ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能な計画	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当する有害物質を含まないことがメーカーにより確認されている、タイル用接着剤、壁紙用接着剤、サッシ用シーリング、塗膜防水の塗料を使用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率75%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	I 1)住宅用の自転車置場は1,187台(687戸×1.72倍)と バイク置場50台を確保 II 1)住宅用の駐車場は207台(住戸数×0.3)を確保 2)敷地内に管理用・荷捌きスペースを確保 3)入口から駐車場まで長さ幅6mの車路を設け、 待機スペースや車寄せスペースも確保。 安全対策で出入口に庫庫灯・カーブミラーを設置	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	1)「光害対策ガイドライン」のチェックリストのを 満たしている 2)「広告物証明の扱い」の配慮事項の一部を満たしている	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	